

本庄村史資料

神樂講關係參考文書

神戸深江 生活文化史料館



参考 神樂講關係文書 目次

深山家文書關係

御神樂講儀式目錄

一、神樂講勤方覚	(寛政八辰)	6
一、神樂講中取締帳	(嘉永五申)	14
一、神樂講中儉約ニ付献立覚	(天明五巳)	15
一、神樂講道具帳	(天保十二丑)	16
一、神樂講諸事入用帳	(嘉永七寅)	20

永田家文書関係

一、神田譲り渡畑地証文之事

(嘉永元申)

15

一、神樂講持畑地売渡証券

(明治十六)

68

一、譲り渡シ畑地証文之事

(明治六)

(追)

51

一、畑地鍬下売渡シ証券

(明治十八)

(追)

52

永井正治家文書関係

一、御神樂請帳附講中名前

(元治貳丑)

(四)

3

深山家關係文書

寛政八年 御神楽儀式目録之写

寛政八辰歳四月

御神楽儀式目録之写

并ニ呼出シ人数附座引

御神楽勤方覺

一 當番四軒宛

但新官之者二ヶ年過候ハ、當番へ加へ可申事、且又當番之内萬一不幸有之候ハ、日数五十日過候ハ、名代ヲ以相勤可申事

一 料理献立之事

酔少し味噌入

鱈

けん唐からし

かりき (註 19頁)

いかの足

大こん

味噌

汁

ちさ

鰹節

煎物
いかなご
無之時ハ
からやま

飯

焼物
むう

但シ扇子三尺無之時者小二疋つゝ、是以
不調節ハ

御酒

一
みき 洗米
わかめ

御膳

二
未椀
肴いか 木の芽あへ

三
中椀
四
同断

五
食椀

肴浜焼塩鱈 若芽取引ケ

御酒
當さし

盃
飯椀

さかな浜焼鯛

右之通可被相勤候 以上

役人中

猶又講中一統相談之上込銀ニ相成候年者別
紙ニ定書有之候

定

一給仕之義人数多候ニ付詰句宜候間 若者拾
貳人、子供無用ニ可致候 此旨可被心得候
以上

安永四未歳三月廿七日写

覚

一、神楽新田作徳米毎年米壹石貳斗宛相渡来り候處、天明五巳年右新田砂入荒畑ニ相成候故、講中一同相談之上寛政四子歳左兵衛五郎兵衛市左衛門當番之節々本升貳升と相定候間、仍而覚書如件

寛政四子歳写

前書新田砂入之義者別勤ニ開發候も難相成候得共 購中申合出精 追々開發之手立可然取計專一ニ存候 以上

覚

一 御神樂口明ケ之義者銀六拾五匁与相定、添御神樂先年々上ケ来り候處、其後御社内石垣普請ニ付頼母子興行十ヶ年之間神主江相対ヲ以右掛銀ニ相用、尤右年限ニ相成候得者添御神樂へ先年之通り上ケ可申筈ニ候得共前文ニも有之候通り新田等も砂入ニ相成候故、右六拾五匁ニ而者當番も難義ニ付一

同相談之上寛政八辰歳徳右衛門伊兵衛助左衛門當番之年々銀三拾六匁添御神樂差上申候間無怠慢御執行有之候様取計可致候事

寛政八年辰四月

一 御神樂座鋪有之候分當時相休ミ候とも株有之筋合之悴とも給仕人茶はこひ無遠慮可罷出来、力取持之儀者株有之候而も相休ミ居候ものハ罷出候事相叶不申候、右者中興混雜ニおよび候ニ付一統相談之上相調定置候、以上

文政十亥歳

一 當年御神樂御興番ニ當り一統相談之上込ミニ相成候處、是迄之儀者御酒ニ相成候ハ、役人分ニ而座敷相納申候處、當年分々以後講中一同出席致し御酒ニ而禮式相納可申候 以上

献立

壺 未椀

式 中椀

肴洗米若目 但シ當指し之義者中椀ニ而相

納可申候 以上

天保十一丑年四月

源助

寛政十二申四月呼出シ

新左衛門

助次郎

惣五郎

亨和三亥三月廿六日

大工 治兵

寛政八辰四月呼出シ

彌左衛門

新右衛門

友八

宇平次

彌兵衛

文化貳丑三月廿六日呼出し

七兵衛

五郎八

平右衛門

平治郎

寛政九巳四月呼出シ

與兵衛

彌左衛門

文化三寅三月廿六日呼出し

友三郎

權兵衛

寛政十午歳呼出シ

源兵衛 別家

文化五辰年呼出シ

市右衛門

文化七午歳呼出シ

喜藏

文化八未歳呼出し

文化十四丑歳相勤メ

作左衛門

九左衛門

中右衛門

久三郎

權六

文化十四酉年呼出

九兵衛

久四郎

文化十一戌年呼出シ

半三郎

爲三郎

文化十四年丑四月朔日呼出シ

治右衛門

徳右衛門

濱ノ三郎兵衛

此三郎兵衛義ハ相休申候

卯歳の新講

二人宛加入

文政六末年呼出シ

一仁左衛門別宅

兵左衛門

亥相勤

同年呼出シ

一與次兵衛別宅

定五郎

子と相勤

同年呼出シ

一藤左衛門別宅

藤三郎

同年呼出シ

一休ミ居候得共

忠左衛門

今年入 戌歳相勤

同年呼出シ

一 藤右衛門別宅

宋詮

當時息子勤學候間引取次第相勤候

先夫迄相休

同年呼出し

一 平右衛門別家

和助

文政七申歳呼出し

一 七兵衛別宅

栄五郎

相勤申候

同年

一 相休居候得共

甚兵衛

當年々呼出相勤

同年

一 善左衛門別家

清左衛門

辰とし 相勤

文政八酉四月五日

一新兵衛別家

新五郎

卯とし勤

同年

一 休ミ居候得共

庄九郎

呼出し巳とし勤

同年

一 右同断

小右衛門

辰とし勤

文政十亥とし

一 清兵衛別家

清五郎

巳とし勤

文政十二丑とし

一 休居候所呼出シ

治兵衛

午とし勤

同年

一同断

辰とし勤

庄八

天保二卯年

一文政戌歳相休ミ

此度呼出シ

與左衛門

同年

一同断

伊左衛門

天保二卯年

一半三郎別家

定次郎

同年

一市郎右衛門別家

喜左衛門

同年

一彌二兵衛別家

甚四郎

文政十三寅歳呼出シ

一三右衛門別家

栄三郎

同三年辰歳

一文化年中相休ミ

十左衛門

午年勤

此度呼出シ

右同年

一權兵衛別家

權三郎

天保七申歳

一清次郎別家ニ而呼出し

久七

同年

一久左衛門別家

久右衛門

天保七申歳呼出シ

一喜平次別宅 喜平次

同十亥歳呼出シ

一幸左衛門別宅 弟 富五郎

同年

一久左衛門弟別宅 源助

子四月二日

一暫く相休居候得共 忠左衛門

當年呼出相勤申候

同年

いけたや

一伊兵衛別家 勝次郎

同年

一善一郎別家 善八

弘化二日歳呼出シニ相成

一惣左衛門別家 惣七郎

同年

一善吉郎別家 善太郎

同年

一與兵衛別家 與三兵衛

弘化三年歳呼出ニ相成

一庄左衛門別家 作次郎

同年

一市良右衛門

嘉永三戌歳

一平次郎別家 藤平次

同年

一權六別家 權次郎

嘉永四亥歳

一相休居候處呼出シ 宋 詮

同年

一右同断呼出し

六左衛門

別帳写

嘉永元年申四月

神樂講中取締帳

一此神樂法式之儀者古來も無怠慢相動来候處
表式之義大躰先規通りニ候得共、勝手方
之義殊之外心得違追々混雜増長いたし候様
相成候ニ付、為後日此度一統相談之上極左
ニ書記可申事

覚

一取持四人

能相心得候

家持三人

一給仕人

先規通り

拾六人

一茶歩連

小供拾六人之所

相改 八人

一焼物

先規通り

鯨無之候ハ、

鯨節目方五拾目

但し小鯨相添候事

一濱焼塩鯛

眼之内

壹尺貳寸以上

右之外人柄之義有無ヲ不撰候事

一焼物之義者本番限り、勝手之者何等之焼物

ニ而も一切無用之事

附り

庄屋内義 當寺江是古送り膳いたし候得共、

一切無用之事

親類何方ニ而も送り膳握飯差出し申候事決
而致間敷候、并ニ當番之外子供呼事無用

勝手方

一送り膳 女拾六人

一同飯詰 女四人

一酒方 三人

一汁方 貳人

一煙草方 壹人

一飯焼 四人

前日手傳 取持 四人

給仕人 十六人

女 十六人

一落作之義者取持給仕人茶はこひ丈ヶ相納可

申事 (註 19頁)

右之通り講中一同相談之上取極候ニ付不乱様
後々年ニ至り急度相守可申事

嘉永元年申四月

別帳面之写

天明五巳歳

神樂講中儉約ニ付

献立之覚

御造酒

御洗米

わかめ

三組盃

吸物

味噌二而

花かつほ

青な

きのめあへ

但し箱ニ而も

有合次第

三 塩鯛 濱焼

右之通ニ而當指可仕候事

右之通村方儉約申合ニ付此以後右定書之通
堅相用可被申候、爲後日儉約定書仍而如件

村方

巳四月

役人中

前書之儉約ニ應し呼衆案内も同様之謙約(儉)
たし祝儀取納可申候ニ付呼衆之宛左之通

覚

案内

庄屋

年寄分

右之通ニ而祝儀相納可申候事

一 壹匁 甚兵衛

一 壹匁 小頭

一 壹匁 座頭

一 五分 吉助

一 錢貳拾文ツ、 両髮結

二人

右之通ニ祝儀包可申候事

別帳面之写

天保十二丑歳政

神樂講諸道具帳

講中

座敷本盤焼物すへ候義八禰ころほん用内座敷
ニかきり候事

但し送り膳焼物平覆ニて焼物すへ相用可申事

一 呉郎丸御幕

三張

一 銚子

二 対

一 大杓子

二 本

一 錫

一 対

一 対共少々當り疵御座候

右之通箱入 箱数 十四

一 丸盆

拾枚

一 根頃盆

四拾枚

一 食継

五ツ

一 同古

五ツ

一 杓子

五本

一 木皿

六十人前

一 湯桶

八ツ

但し一ツふちニあたりきづ

此外往古より勤来り候名前書之古帳面別ニ有之候、其帳面表紙ニ書附有之候写左之通

一切立

但しびよう一本不足

往古ハ 錢打

一 古平おひ

三拾壹枚

錢揃

一 赤碗

内一枚紛失

上野村

一 膳

六拾人前

祭翁 高ノ長助

但し壹せん不足

六拾人前

神子

一 太鞆

壹ツ

一 引掛間鍋

四ツ

右神樂講慶長六年初毎年大切ニ相勤可申事

右之通書付有之候事

嘉永七申寅歳

當番勤方左之通

四 同断

五 盃 飯椀
肴ハ濱焼鯛

献立

洗米若目等引取

一 御神酒

盃ハ末椀

村役人衆ハ明年之當番呼出し

肴ハ洗米

當指之盃ハ飯椀

若芽 わらしべ

肴ハ濱焼鯛

但し庄屋ハ三組盃

御客膳之手前

御膳

飯椀少し盛り

二 盃 末椀

汁椀ハ伏セテ底ニ木の芽乗セ置

肴ハいか

焼物

木の芽あへ

けん かりぎ

二切ツ、

鱈 唐からし

大根

酢味噌 いかの足

三 盃 中椀

香之物 二切

右之通 膳附

役割

亭主方

取持人 二人

給仕人 四人

茶汲 子供 二人

四月四日白米二升飯次ニ入 爲焼物料錢百

文半紙ニ包ミ水引ヲ懸ケ講中へ配リ

五日當番四軒丈ケ寄合明日之取調可仕候、

神主へ參リ祈禱相濟候ハ、錫一對洗米若芽

神前々下ケ持歸リ置、本盤之年柄ハ宵日之

口ケ明ケとして手傳人一統打寄り、米洗米

撰式日之拵ニ付一統御酒差出可申事

前日之案内上下ニ而庄屋年寄百姓代衆へ一

度ツ、行候事

六日式日庄屋へ七度半、年寄百姓代衆へ三

度ツ、案内ニ行可申事

祭禮之後日神主ヲ御神前御鏡餅昆布するめ、

右三品被下候 早速講中一統へ分ケ配リ

可申候事

嘉永五子歳田畑早損仕候 同六丑歳又大早

損田畑共皆無ニ相成候場所多く、百姓一統

大ニ困窮仕候仕候、其上異國北亞墨利伽州

ノ江戸表へ數艘入船仕、彼是難題之交易願

出候ニ付、諸大名衆所々に陣ヲ取り軍用御

手當有之、夫々身上相應爲御冥伽銀御用金

被爲仰付候ニ付、國中一統何事ニ不寄質素

儉約相守リ候、依之嘉永七寅酸四月神樂講

勤メ方如此ニ候

<p>○かりき 〓刈葱葉細くて小さく夏刈 って食用とする</p> <p>○落作 〓食残し</p>
--

嘉永七年 神樂講事入用控

嘉永七年寅歳四月六日

神樂講諸事入用控

覚

一 貳百三拾五匁 上白米 二石
 一 拾壹貫五百文 燒物料 百十五軒分
 一 拾六匁 濱燒鯛 二枚
 一 壹貫貳百文 味噌豆 壹斗
 一 拾九匁七分八厘 麴代
 一 壹貫六百文 香の物 一樽
 一 貳貫七文 酒代
 一 拾匁 上酒 五升代
 一 三百七拾二文 茶碗 四十
 一 貳百廿八文 半紙
 一 壹貫貳百六十六文 勝手のさかないいろいろ
 一 貳匁二分 塩 一俵
 一 九匁一分 烏賊 二十

一 貳百六拾文 いかなぎ 四籠
 一 四百廿文 竹の子 壹貫五百目
 一 三拾文 大根
 一 五拾六文 燈油 壹合
 一 貳匁八分 炭 壹俵
 一 廿文 生姜
 一 二拾文 昆布
 一 三拾文 たばこ
 一 貳百廿八文 きせる 四本
 一 百文 水引
 一 四拾六文 茶 一升
 一 貳百六拾一文 蠟燭 廿二本
 一 拾文 わかめ
 一 貳匁五分七厘 鯉節 九十二匁
 一 百文 青粉
 一 五拾文 唐からし 壹升
 一 壹匁八分 薪 十貫目
 一 百三拾四文 壹升杓 二本
 一 五拾六文 同五合 二本
 一 拾八文 同壹合 一本

一拾文 角箸 五ぜん

一五拾六文 かたほそはし 五十ぜん

一八拾文 同上 百膳

一七拾文 なみ箸 二百ぜん

一三拾六文 杓子大 四本

一貳百六拾八文 同小 四十本

一百廿四文 酢 壺升五合

一百八拾四文 醬油 二升

一七拾文 大阪宿拂

一三百文 同雑用

一三百九拾三文 塚行雑用

一貳百廿四文 毎日丸運賃

一三百廿四文 堺の大坂迄焼物駄賃

一貳百三拾六文 白米 二升

一百三匁九分一厘 焼物鱧 二百十八疋

此分賣拂代銀 五拾目

差引 五十三匁九分一厘損

一金二分 御神楽代

代三拾三匁九厘 銀札三匁添

合三拾六匁也

一百銅 一

一十二銅 一

一錫 一對

一焼物 五疋

一二升樽 一

右神主へ持参ス

一式匁祝儀 歩行 喜次郎

一同 髮結 東の床

一同 同 西の床

一同 下役 吉助

一壹匁 同 門助

右之通入用

外ニ講中寄米壺軒前二升ツ、五十軒

玄米壺石あり 二割引ニ而上白米八斗と成

銀四百四拾八匁二分五厘

内五十目焼物賣拂代銀入

差引三百九拾八匁二分五厘

五匁五分宛

錢廿三貫百八拾一文

惣合

内講中寄錢一軒前百九十六文ツ、六拾五

百卅匁式分五厘

軒分

拾貳貫七百廿八文

差引

拾貳貫四百五拾三文

九匁六分四厘かへ

此代銀百目七分七厘

銀錢合

四百九拾九匁

四軒二割

百廿四匁七分五厘宛

外二

金百疋

宿の禮 魚市へ

代十六匁五分

三軒二割

式日勤方之儀者別帳ニ書誌

右焼物鯉賣拂ニ相成候義ハ、半三郎醉狂ニ而喜兵衛、善四郎兩人相手取り喧嘩口論をいたし、彼是右焼物を持出し擲候ニ付、右相手兩人ノ村方へ届ケ混乱仕候ニ付、右焼物之義講中一統へ申訳無之、此品差出シ候節者是非ノ口論等も可有之と、村方之取計ひニより焼物ハ賣拂、焼物料として錢百文ツ、配り申候事也
此焼物之損失無之候ハ、
老軒前 百十一匁一分七厘ツ、ニ而相す候

案内

前日 七ツ時

庄屋 年寄 百姓代衆一度ツ、

式日 朝六ツ時ゑ

庄屋江七度半

年寄 百姓代衆へ三度ツ、

當番組合

藤左衛門

市郎兵衛

半三郎

深山

永田家關係文書

(包紙)
「神楽新田事

七兵衛畑ケ証文入

嘉永元年申八月

「

永田屋

平治郎殿

栄五郎

譲り渡シ畑地証文之事

字永井神新田与唱老反六畝廿歩之内

一、下々畑[㊦] 八畝歩 分米壹斗六升七合

右之畑地之儀ハ当村神田ニ御座候処、私永久支配仕村方え御年貢無違滞相納来リ候処此度無拠儀ニ付譲リ渡シ爲[㊦]繳代銀三百八拾七匁五分[㊦]ニ請取申[㊦]処実正ニ御座候、然ル上は御年貢諸懸リ合等、貴殿[㊦]御勤可被成候、右畑地ニ付[㊦]脇[㊦]妨申者毛頭無御座候、若故障ケ間敷義申もの出来候らへハ、請人罷出急度埒明貴殿へ少シも御難儀相懸申間敷候爲後日之畑地譲リ渡シ証文仍[㊦]而如件

嘉永元年

譲り渡シ主

申八月

七兵衛[㊦]

請人

(端裏附箋)「坂上八郎兵衛ヨリ入証文」

畑地賣渡シ証券

一、金三圓也

右金額ヲ以賣渡候品左ニ

字神樂田百三拾六番

一、畑耆畝廿壹歩

此地價七圓八拾錢六厘

但券状面ハ村中持

ノ

右ハ當村神樂講中持ニ御座候處、我等永久歛下ニ而所持仕罷有候、然ルニ今般相對之上貴殿へ賣渡シ、則前顯之金員正ニ請取候處衷正也。以後ハ租税金并ニ金貳錢五厘宛毎年爲作徳料ト神樂講中へ相渡可被下候。爲後日賣渡シ証券如件

明治十六年

一月四日

賣渡主

坂上八郎兵衛

右請人

飯田 八尾松

永田平次郎殿

前書之通相違無之候也

戸長

中田秀一

印

原郡 江村戸 役場印

乙 第壹号

菟原郡深江村

㊦ 地第拾四号

「 (端裏付箋) 仲右衛門証文 」

譲り渡し畑地証文之事

字納家後年々

一、下々畑壹畝拾歩 分米[㊦]八升

字神楽田

一、畑地[㊦]式ヶ所

但シ此分神楽講内ニ而我等代々継下永小作仕
来り候ニ付、小作年貢村方差配ニ而年々相納
来り候

又

右之畑地我等代々所持御座候処、此度無拠儀ニ付
其許殿へ譲り渡候。則礼金三拾[㊦]円[㊦]ニ請取申処実
正也。然ル上ハ御年貢諸役等其許殿[㊦]御勤可被下
候。尤右畑地ニ付脇外[㊦]違乱故障申者毛頭無御座
候。万一妨申者出来候ハ、加判之者罷出急度埒

明貴殿へ少も御難相掛申間鋪、為後証畑地譲り渡
シ証文仍而如件

譲り主

明治六年

志井仲右衛門

酉五月

右受人

清水与吉

永田平次郎殿

前書之通相違無御座候ニ付奥印仕候。以上

戸長

中田善右衛門

〔端裏付箋〕

弥三左衛門

中尾音吉 ㊦

畑地歛下売渡シ証券

永田平治郎殿

㊦

前書之通相違無之候也

一、金七円五十銭也

深江村什長委員

此金高ヲ以テ売渡シ候品左ニ

明治十八年二月十一日

中田秀一 ㊦

百貳拾三番字神楽田

一、畑壹ヶ所 此反別八畝六歩

但シ歛下売渡シ

ノ

右之畑地我等ニ而支配仕来リ候処今般無擬要用之儀ニ付貴殿江売渡シ前頭之代金正ニ請取申処確實也。然ル上は諸税諸掛合等一切其許殿ル御勤メ可被成候。尤右畑地ニ付故障等申者無之、若彼是申者出来候ハ、請人罷出屹度埒明貴殿へ少シ茂御迷惑相掛け申間敷候。為後証歛下売渡証券如件

右売渡シ主

明治十八年二月十一日

西網元治郎 ㊦

右受人

永井正治家關係文書

(表紙)

元治貳年丑卯月

御神樂講帳

当番

御儀式

壺

錫徳利
洗米
若和布

是る御膳引

式 盃米 椀

肴いかの木の免阿へ

三 中 椀

四 同

五 食 椀

肴濱焼

若可免取引ケ

御酒當さし

御膳

一 酢少シ味噌入

鱈

か連り
いかの足
大なん

けんハとがらし

汁 ちさ

鯉ぶし

焼物 む路

煎物 いかなご

右之通ニ御座候以上

取持

善太郎

弥惣左衛門

徳右衛門

久右衛門

給仕人 四人

茶はこび 四人

当年御興老人ニ付

上汁

一、五百三拾六匁 式百六拾八匁也

上白式石
清太郎渡

一、百三拾三匁五分五厘 酒片馬
岩田茂渡

一、式ノ三拾文 肴代
いろいろ

代三拾匁九合八厘

一、四拾五匁 いか式十

ノ七拾五匁九分八厘 市良兵衛
肴代

一、八百廿五文

代拾式匁六分四厘 彦左衛門
いろいろ買物

一、三拾七匁七分五厘

ノ五拾匁三分九厘

一、拾式匁

蠟燭代
壹斤半
深山商店

一、五百廿五文

醬油代

代八匁壹厘

茂左衛門へ

三百八拾五文

伊兵衛へ

代五匁八分七厘塩物代拂

一、百拾文

代壹匁六分八厘又左衛門へ
拂

一、八百文

いり四斗

代拾式匁式分壹厘喜三郎
へ拂

一、壹ノ三百文

上大こん
壹把

代拾九匁八分四厘

一、拾六匁五分

松木
四十四ノ目

一、貳拾匁八分

とさふし
百三拾匁

一、三拾貳匁

濱焼貳枚

一、壹匁

飛脚ちん

一、五匁

由葉杯
壹丸

一、七百廿文

いかなご
六籠

代拾匁九分九厘

一、貳匁八拾文

竹の子
四匁目

代三拾壹匁七分四厘

一、八百文

柴代

代拾貳匁貳分壹厘

一、金貳歩

氏神
初米料

代四拾九匁壹分

一、百文

祈禱料

代壹匁五分三厘

又拾銅

六文

さいせん

一、金壹朱

神主
焼物料

代六匁壹分四厘

一、金百足

久左衛門
席料

代貳拾四匁五分五厘

一、六匁

市良兵衛
祝儀

一、壹匁

東床

一、壹匁

西床

一、壹匁

六左衛門

一、壹匁

若助

一、五分 門 助

一、五分 小 頭

一、百九 勿 講中 燒物料

〆 壹 〆 百八拾八 勿 三分 壹 匣

内

貳 百五拾四 勿 八分 九厘 寄 銀

又 百 目 村 方 〆 出 銀 分

〆 三 百五拾四 勿 八分 九厘

〆 八 百三拾三 勿 四分 九厘

是 〆 四 人 割

壹 人 前

貳 百 八 勿 三 分 六 厘 宛

講中名前

仁左衛門

徳兵衛

茂左衛門

惣五郎

庄左衛門

彦左衛門

作治郎

源治郎

与兵衛

小右衛門

甚兵衛

善吉郎

善吉郎

常右衛門

角兵衛

権治郎

長左衛門

市右衛門

権兵衛

平右衛門
宗七
久兵衛
弥次兵衛
太兵衛
忠左衛門
權左衛門
半三郎
九郎左衛門
玄碩
喜三郎
惣左衛門
勘左衛門
忠右衛門
治左衛門
九郎兵衛
善兵衛
七郎兵衛
幸左衛門
治右衛門

利右衛門
富五郎
藤兵衛
定五郎
善右衛門
新兵衛
与左衛門
吉右衛門
善左衛門
新左衛門
茂兵衛
仁右衛門
源兵衛
治兵衛
友三郎
又左衛門
友八
六郎兵衛
善四郎
与次兵衛

五郎兵衛
孫右衛門
喜兵衛
仲右衛門
五郎左衛門
市郎兵衛
三郎兵衛
藤平治
藤左衛門
栄三郎
市郎右衛門
庄兵衛
徳右衛門
七兵衛
平次郎
新五郎
利兵衛
勝次郎
彦右衛門
権六

善一郎
伊兵衛
伊兵衛
清左衛門
与次右衛門
佐兵衛
治兵衛
新五兵衛
庄八
清右衛門
九右衛門
三右衛門
喜作
太兵衛
九兵衛
弥忠右衛門
重右衛門
仁兵衛
八郎兵衛
久右衛門

太郎左衛門

新右衛門

治兵衛

喜左衛門

孫右衛門

岩三郎

久四郎

甚右衛門

吉郎兵衛

今年休

徳左衛門

今年入講

八右衛門

同断

清五郎

庄屋

茂左衛門

年寄

善右衛門

同断 久左衛門

百姓代 惣五郎

同断 平治郎

御案内

庄屋 七度

年寄 五度

百姓代 三度

當番

喜平治

” 久左衛門

” 源左衛門

” 市兵衛

(裏表紙)

永井

喜平治

所持

本庄村史資料

神樂講關係參考文書

一九八八年八月二十五日發行

編著者 本庄村史編纂委員会

発行所 神戸深江生活文化史料館

神戸市東灘区深江本町三十五丁七

印刷所 印刷ショップ フタバ

